



一隅を照らす運動総本部だより
No. 49



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>



第17回 心のつどい in 比叡山

7月20・21日
比叡山延暦寺会館



第十七回「心のつどい in 比叡山」(一隅を照らす運動総本部主催)を比叡山延暦寺会館で開催。七月二十日、二十一日の二泊二日の日程で、一般公募で集まった男女三十五名が参加した。

一日目の開講式では、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、今出川行戒延暦寺参拝部長から挨拶があり、続いて日程説明や延暦寺会館での注意事項等の説明の後、研修会がはじまった。

最初に諸堂参拝として「根本中堂」「浄



特別に作業用の足場上がり、屋根と同じ高さから迫力あるお堂の様子を見学することができた。

夕食の後、『法華経』の写経に取り組んだ。参加者はみな、静寂な空気の中、集中して一文字一文字を丁寧に書き上げていた。

つぎに座談会が、六つのグループに分かれて開催された。長道圓俊師(本運動企画運営委員)や総本部職員も話しの輪に加わり、お互いの考えや想いを語り合い一日目の日程は終了した。

二日目は、早朝五時半より根本中堂にて坐禅止観、朝のおつとめに参加した。早朝の清らかな空気が漂う中、参加者は緊張感

土院」「釈迦堂」を巡拝した。比叡山延暦寺では、大法会の特別記念事業として六十年ぶりとなる総本堂根本中堂の改修事業を行っている。根本中堂では、

を持つて臨んでいた。その後、大書院周辺での作務（清掃奉仕）を行った。

朝食の後、延暦寺一山円覚院住職の宮本祖豊師を講師に迎え、「比叡山の修行」と題した講演が行われた。宮本師は講演の中で伝教大師のみ教えに触れるとともに、自身が経験した十二年籠山行について語られた。その過酷な内容もさることながら、修行を通して感じた、感謝することの大切さを参加者に熱く語られていた。

研修会を終えた参加者らは「初めて参加させていただきました。大変有意義な二日間を過ごすことができました」「様々な思いを持つ参加者が集い、和やかな雰囲気での研修会が営まれたので大変良かったです」と感想を述べていた。

一隅を照らす運動推進大会

○兵庫大会

兵庫教区本部（荒樋勝善教区本部長）では、平成三十年六月六日に神戸市のシーサイドホテル舞子ビラ神戸を会場に、第四十九回天台宗兵庫教区檀信徒総会・一隅を照らす運動推進大会を開催し、約三百名の参加者が集まった。

はじめに荒樋教区本部長導師のもと法要



最後に、陸上女子一五〇〇M日本記録保持者・北京五輪日本代表小林祐梨子氏を講師に「人との絆（たすき）に込めた想い」と題した講演があった。

が執り行われた。法要に引き続き野花敏郎教区檀信徒会会長・荒樋教区本部長・天台宗参務森田源真教学部長・森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より挨拶が述べられた。次に来賓の紹介が行われた後に教区檀信徒総会があった。

休憩後、一隅を照らす運動実践者六名の発表があり、森定総本部長より表彰がなされた。

○東京大会

東京教区本部（杜多徳雄教区本部長）では、平成三十年六月十八日に東京都台東区の浅草公会堂を会場に、第四十八回一隅を照らす運動東



京大会を開催し、約千名の参加者が集まった。

第一部では、輪王寺門跡・寛永寺住職神田秀順大僧正を導師に法要が執り行われた後、神田大僧正の挨拶、杜多教区本部長の挨拶があった。

その後、来賓の挨拶があり、続いて教区本部の表彰授与式が行われた。第二部では、アルピニスト

野口健氏を講師に迎え、「富士山から日本をかえる」と題して講演が行われた。
最後に、關口教区副本部長より閉会の辞が述べられ閉会した。

○福島大会

福島教区本部（故矢島義謙教区本部長）では、平成三十年七月二十一日に郡山市のあおき郡山斎苑を会場に、平成三十年度天台宗福島教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動推進福島大会を開催し、約二百五十名の参加者が集まった。

はじめに檀信徒会総会が行われ、続いて休憩を挟み、一隅を照らす運動推進大会が開催された。講演では、京都教区妙法院住職杉谷義純師を講師に迎えて「他者と生きるよろこび」



一隅を照らす」と題して行われた。杉谷師は、「人間関係が希薄になり他者に対する無関心が増える現代において、一隅を照らす運動を通じて他

者との関係を再構築し、共に生きるよろこびを感じられる社会の実現を目指すことが求められる」と語られた。

○陸奥大会

陸奥教区本部（千葉亮賢教区本部長）では、平成三十年九月九日に西磐井郡平泉町の毛越寺を会場に、天台宗陸奥教区第二部檀信徒会ミニ一隅会、東日本大震災慰霊復興支援写経会を開催し、約五十名の参加者が集まった。

はじめに東日本大震災物故者追悼慰霊法要が一隅を照らす運動陸奥教区本部理事長の四竈亮澄師を導師に執り行われた。

また、「一隅を照らす運動五十周年記念仙台大会」と題して、四竈亮澄師より講話が行われた。



講話の中で、一隅を照らす運動の意義・活動を解りやすく話され、会員一同は「忘己利他の心」を忘れず、一日一生のおもいで、多くの人々と苦楽

を共に精一杯生き抜くことを誓う機会となっていた。



さらに、本年十月に開催される「一隅を照らす運動五十周年記念仙台大会」の話では、「日常生活と仏道修行」と題して講演をされる北嶺大行満大阿闍梨の藤波源信師を紹介、千日回峰行の過酷な体験談を聴けるとあって、会員一同は講演の日を待ちきれない様子であった。

写経は「延命十句観音経」を書写し、毛越寺法務部次長藤里侑生師より写経の意義、所作、功德を学び、震災復興を祈念し、一字一字丁寧に心を込めて書写されていた。

東日本大震災より八年目となるが容易に復興は進んでいない上に、西日本豪雨、台風二十一号被害、北海道胆振東部地震と災害が続いている。本会を終えて、大勢の会員から「あらゆる災害に対して今後とも教区・一隅・菩提寺の行事を通じて物心両面の支援を行い、早期復興を願うこと、互いに日頃から防災の意識を持つことが大切である」との声が寄せられた。

一隅を照らす運動ニュース

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催



平成三十年六月二十九日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において平成三十年度第一回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、平成二十九年第一回「一隅を照らす運動」の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。

また、今回の理事会において顧問・役員の変更があり、それぞれ承認・報告された。

【顧問】

杉谷 義純師 京都教区 妙法院住職・再任

【理事】

辻井 芳道師 滋賀教区 眞迎寺住職・新任

大澤 貫秀師 埼玉教区 福正寺住職・新任

綾小路乗俊師 群馬教区 常圓寺住職・新任

【監事】

奥村 慶淳師 京都教区 眞正極樂寺住職・再任

清水 英雄師 埼玉教区 泉福寺住職・再任

◎日本ユニセフ協会へ支援金を寄託

平成三十年八月四日、比叡山宗教サミット三十一周年「世界平和祈りの集い」（比叡山延暦寺）



の開催日に合わせて、日本ユニセフ協会への募金寄託式が行われた。この募金は、毎年八月に行われる「天台青少年比叡山の集い」に参加したリーダーと研修生の小中学生が出し合った募金と、全国から寄せられた浄財を合わせたもので、総額は二百万円。

寄託式では、天台青少年比叡山の集いに参加した研修生の代表から大樹孝啓一隅を照らす運動会長へ目録が、引き続き大樹会長から早見研日本ユニセフ協会専務理事に目録が手渡された。

◎寺庭婦人連合会が義援金を寄託

平成三十年八月七日、天台宗寺庭婦人連合会の小林好野会長らが来庁し、「平成三



十年七月西日本豪雨災害」の義援金が一隅を照らす運動総本部に寄託された。寄託された義援金は、全国から寄せられた緊急募金と合わせて、被災された

地域の復興に役立てられる。

◎ドワン・プラティープ財団設立四十周年記念式典

平成三十年八月二十七日、タイ・バンコクのドワン・プラティープ財団本部においてドワン・プラティープ財団設立四十周年記念式典が開催された。

同財団は、タイのスラムで暮らす人々の救済を目的に設立された組織で、教育から社会福祉、健康促進、人材育成など幅広いプロジェクト活動を展開している。

式典では、タイ王室ウボンラット王女の出迎えがなされた後、同財団副理事長ミンポン・ウンソンタム氏より「四十周年誌」の進呈、同財団創設者であり事務局長でもあるプラティープ・ウンソンタム・秦氏より式典の主旨についての報告がなされた。



続いてド
ウアン・プ
ラティープ
財団幼稚園
に通う園児
たちによる
踊りが披露
された。

最後にウ
ボンラット
王女よりク

ロントイスラムの教育・福祉向上に長年貢
献・支援してきた個人並びに組織への表彰
が行われた。一隅を照らす運動総本部も表
彰され、森定慈仁同運動総本部長に感謝状
が授与された。

◎天台聲明兵庫社会奉仕會に義援金を寄託

平成三十年九月十三日、天台宗務庁にお
いて「平成三十年七月豪雨災害」の義援金
百萬円を一隅を照らす運動総本部地球救援
事務局より天台聲明兵庫社会奉仕會に寄託
した。

この義援金は、平成三十年七月豪雨災害
の緊急救援募金として全国各地より「地球
救援事務局」に届けられた募金の一部を寄
託したものである。

天台聲明兵庫社会奉仕會は、檀信徒のみ

ならず広く社会への天台声明普及と、忘己
利他の精神のもと、災害被害など厳しい状
況に苦しむ方々への幅広い支援活動という
解行双修を目的に活動しており、被災され
た地域にてボランティア活動や声明公演を
行っている。



今回の平成三
十年七月豪雨
災害では岡山
県岡山市東区、
倉敷市真備町、
広島県安芸郡
坂町、呉市で
土石撤去など
復興支援に従
事された。

◎ラオス・チェンカン小学校々舎落慶・引渡式典を開催

平成三十年九月二十七日、ラオス・チェ
ンカン村において小学校々舎の落慶並びに
引渡式典が開催された。

一隅を照らす運動総本部では、平成四年
より地球救援事業の一環として、仏教救援
センター（BAC）が展開する学校建設事
業と連携し、ラオス国内での学校々舎建設
に取り組んできた。

今回の学校建設では、現在までに各地よ



り集まったラオス
学校建設への指定
寄付を元に計画さ
れ、この度落慶の
日を迎えることと
なり、これをもつ
て、ラオスでの学
校建設支援は一旦
終了する。

式典には、一隅を照らす運動総本部から
森定慈仁総本部長が、BACから西郊良光
顧問・伊藤佳通理事長・荒樋勝善事務局長
が出席した。

式典では、森定総本部長から子どもたち
に向けたメッセージが披露され、続いてチ
ェンカン小学校々長に校舎の鍵を贈呈、支
援者たちからは、子どもたちに文具や玩具
がプレゼントされた。

最後にチェンカ
ン村があるチャン
パサック県ブウン
トン郡の副教育長
シーサワット氏か
ら謝辞があり、森
定総本部長に感謝
状が贈呈されて式
典は終了となった。

